

イオン1%クラブ アジア学生環境フォーラムの体験談

- ・所属 工学部 無機材料工学科 2年
- ・派遣先国名 ベトナム
- ・プログラム期間 事前研修は10/29.30
プログラムは11/22~28
- ・プログラムの概要

事前研修の概要

イオンの本社で、一泊二日の日程で行われた。内容は、ディスカッションの準備と、C.Wニコル氏の講演。C.Wニコル氏の講演は、環境保護についてだった。

プログラムの概要

ベトナム（主にホーチミン市）の観光と、ディスカッションを行った。ディスカッションは、タイ、ベトナム、日本の学生がそれぞれ30名ずつ集まって行われた。

- ・ディスカッションのテーマと、最終プレゼンまでのチームの状況

テーマは、環境と経済。用意されたケーススタディーをもとにディスカッションを行った。ケーススタディーの内容は、シリウス市という架空の都市があって、その財政状況（例えば、法人税がいくらかなど）と、地理について詳しく決められている。その内容を踏まえて、ケースA:ごみ処理場を作る ケースB:ゴルフ場を作る というふたつのケースについて検討する。検討の際には、それが環境に及ぼす影響と経済的効果の両方を考えあわせなくてはならない。90人の学生は、どちらかのケースに振り分けられ、ディスカッションでの役割（政府、企業、市民の3役）も決められている。ちなみに私はケースBで、役割は企業だった。ディスカッションは各グループ9名（各国3名）で行われた。それぞれの役割が各国から一人ずつ計3名で構成された。私のグループには、2名の大変優秀なタイの学生がいたので、その二人が中心となって話し合いが進んでいった。私はもう少し全員が意見を言った方がいいと考えたので、席替えをすることを提案したところ、話し合いがしやすくなり、状況が改善された。

- ・ディスカッション以外の活動

日程の半分以上は観光をした。観光の場所等は、あらかじめプログラムで決められており、自由時間はあまりなかった。バスでの移動だったので、効率よくいろいろなところを観光できた。22日の夜にホーチミンのナイトマーケットに行ってお土産を買った。23日にはディスカッションをする際にためになるような観光をした。ケースAの学生はごみ処理場、ケースBの学生はマングローブの森を見学した。24日はホーチミン市内を観光した。戦争博物館、ツーズー病院、ベンタイン市場、中央郵便局などに行った。ベトナムにはいまだにベトナム戦争の傷跡が深く残っていることを実感した。夜は、26日に行われるフェアウェルパーティーでの出し物の練習

をした。出し物はそれぞれの国ごとに行い、日本は歌とダンスを行った。25日は、ディスカッションをした。26日にはプレゼンとフェアウェルパーティーをした。27日はフエ市に飛行機で移動して観光した。フエ市では、世界遺産の王宮を見学してから、イオンが作った小学校に行った。その後、飛行機でホーチミン市に戻り、夜中にホーチミンの空港から日本へと帰った。

・感想

大変ためになるプログラムだった。とても優秀な学生がたくさん集まっていて、いい刺激になった。ディスカッションでは、環境と経済が両立したときに、持続可能な社会が成立することがわかった。観光では、発展途上国の現状を知ることができた。インフラ整備など、まだまだやるべきことがあると実感した。